

令和2年度第1回小牧市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時	令和2年11月26日(木) 13時30分～15時30分
場 所	小牧市役所 本庁舎3階 301会議室
出席者	<p>【委員】(敬称略)</p> <p>長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校 前川 泰宏 一般社団法人 小牧市医師会代表 福澤 広 小牧市薬剤師会代表 櫻井 佐穂 公益社団法人 愛知県歯科衛生士会代表 吉元 寛子 小牧市介護支援専門員連絡協議会代表 野口 弘美 保健センター所長補佐 田中 秀治 一般社団法人 愛知県社会福祉士会代表 木村 正尚 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 中野 道代 小牧市介護相談員代表</p> <p>【欠席委員】</p> <p>佐々木 成高 小牧市歯科医師会代表</p> <p>【事務局】</p> <p>伊藤 俊幸 福祉部 部長 西島 宏之 福祉部 地域包括ケア推進課長 平手 明仁 福祉部 介護保険課長 倉知 佐百合 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係長 永田 智奈未 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係主事 三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧管理者 四宮 貴美子 小牧地域包括支援センターふれあい管理者 小林 永尚 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷管理者 高田 かおる 篠岡地域包括支援センター小牧苑管理者 金田 泰丈 北里地域包括支援センターゆうあい管理者</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 評価結果(レーダーチャート)</p> <p>参考資料1 令和2年度市町村及び地域包括支援センターの評価指標</p> <p>参考資料2 令和元年度 小牧市地域包括支援センター事業報告(各包括まとめ)</p>

主な内容

<p>1. 開会</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 会長・副会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、委員から候補者の推薦をもらう。 ・選任の意見は以下のとおり。 <p>○田中委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この運営協議会では、地域包括支援センターの運営に係る承認や評価を行う役目がある。 ・医療や介護などの専門分野に関わるさまざまな立場から、意見を出していくことは大切であるが、会の取り回しとなると、専門分野だけでなく福祉全般に精通した方が良いと思う。
--

- ・候補として、会長に長岩委員、副会長に医師会代表の前川委員を推薦したいと思う。

—他の委員からの異議なし—

○事務局

- ・異議もないため、会長を長岩委員に、副会長を前川委員にお願いします。

(2) 令和元年度地域包括支援センター事業の評価について

【市の評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○中野委員

- ・アンケート収集等行った方が良いと分かっているできておらず評価に繋がっていないのは残念に思う。

○事務局

- ・関係者が集う会議などで適宜ニーズの把握等を行っており、アンケートでの収集は行っていない状況である。
- ・市の人力的なこともあるが、アンケートを行うことによって、地域の介護支援専門員に負担等を掛けることもあるため、アンケートという形をとるのかも含め、関係者の方の意見等を参考にしながら検討していきたいと考えている。

○福澤委員

- ・アンケートを実施するとした場合、アンケートの内容の絞り込みや回答の簡素化をすれば、地域の介護支援専門員の負担も少ないと思う。

○長岩会長

- ・アンケートは、市や地域の介護支援専門員の負担、また、何らかのアンケートを集約したところで、客観指標になるか悩ましい点があると理解してよいか。

○事務局

- ・アンケートは、主観的な回答に偏る傾向にあり、長岩会長がおっしゃった通り、客観的な課題が見えにくい部分があると思う。そのため、アンケートといった形をとるのかも含め、意見等の収集・提供について検討していきたいと考えている。

【南部地域包括支援センターケアタウン小牧の評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・南部地域包括支援センター管理者より、令和元年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○田中委員

- ・開設から3年間で実績を伸ばし、力を付けているのが良く見て取れる。
- ・地域ケア会議の開催についても回数だけでなく、内容についてもしっかり行っていると思うが、地域ケア会議を行う中で、南部地区の特性的なものが何か見えてきたか、あればお聞きしたい。

○事務局（南部包括）

- ・他の地区の地域ケア会議について分かりかねるため、南部の特性とっていいものか判断しかねるが、1つは、高齢になり病院受診や買い物時の移動手段がないということ、2つ目は、地域の方の認知症高齢者に対する対応の仕方などがあげられます。
- ・他には、地域支え合い推進員と「安心カプセル」の活用について、地域ケア会議を通じて連携したといった事例が1つあげられます。

○長岩会長

- ・南部包括が行っている、小規模多機能型居宅介護事業所との事例検討会については、地域ケア会議にカウントしているのか。

○事務局(南部包括)

- ・小規模多機能型居宅介護事業所との事例検討会については、地域ケア会議にカウントしていない。
- ・小規模多機能型居宅介護事業所が担当しているケースで、困難事例がとて多くて、地域からの相談を受けるケースも多かったため、事例検討会に参加させてもらったという経緯がある。

【小牧地域包括支援センターふれあいの評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・小牧地域包括支援センター管理者より、令和元年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○野口委員

- ・介護離職については、よく話題になることだと思っている。とても大切だと感じており、とても良いところに目を向けていただいたと思う。小牧包括が4か所の企業に講座等されたとのことだが、どのような評価だったのか、教えていただきたい。

○事務局(小牧包括)

- ・4か所の企業は、介護をしながら仕事をしている方が何人かおり、実際の苦労を既に感じている方が多かった。
- ・介護を経験された方の話では、自分たちの中で介護と仕事をやりくりして大変な思いをして働いている方がまだまだ多い現状だということだった。
- ・そういった方に、相談先として地域包括支援センターというものがあるということに従業員の方に啓発することに賛同いただける企業に赴き講座等させていただいた。
- ・他の企業も全く関心がないという訳ではなく、企業の3交代制など勤務形態の兼ね合いで、研修の時間が取れない、もしくは従業員の方の就業時間終了後に時間を確保するのは難しいといった時間的な問題があり研修等の実施までに繋がらなかった例もあります。

○野口委員

- ・企業で働かれている方は、大切な人材だと思う。そういった方達を「介護」が原因で離職しないようにするために、企業を通じてどのような制度があるかを伝えていく働きかけがあるのはとても良いと感じた。

○長岩会長

- ・研修等取り組めたのが4企業とのことだが、実際に当たったのはどれぐらいの企業に当たったのか。

○事務局(小牧包括)

- ・11か所の企業を訪問した。これ以外で、2か所ほどは、信用金庫で、毎年新人職員向けの講話をお願いしたいということと、もう1つは、企業の動きとして認知症関連のことに力を入れたということで、企業側からの依頼もあった。

○木村委員

- ・評価としては、バランスが良く頑張っていると思うが、組織運営体制について、平成30年度に比べて10.5%ぐらい下がっている。これは、人員確保がなかなかできなかったというのが主な原因と思うが、今後の取り組みはどのように考えているか。

○事務局(小牧包括)

・現在も1名の欠員がある。募集をかけているところであるが、なかなか応募が集まらないのが現状であり、問合せすらあまりない。問合せがあったとしても、採用までに至らなかった方もいる。

○木村委員

・小牧包括は、元々南部・中部・西部圏域を担当していたが、平成29年度に南部包括ができて、南部圏域の利用者が南部包括に移ったと思うが、人員関係も含めてその後の動きはどうか。

○事務局(小牧包括)

・小牧包括がこの人員で3圏域を担当しているときは、フル稼働で、かなりオーバーワークを全員がしていた。

・南部圏域も相談件数の多い圏域であり、南部包括に担当が移ったことで、変わるかと期待したが、どちらかという、手をつけられなかった部分に取りかかることができるようになった。

・本来、しなければならぬ地域への支援が3圏域にかけてはなかなか及ばなかったが、先ほどの企業などに目を向ける余裕ができてきたという部分で、違いがでてきたと思う。

○木村委員

・人員関係は、募集をしてもなかなか集まらないなど、多々あると思うが、これからも頑張っ
て欲しいと思う。

○長岩会長

・人材確保で苦労しているのは、特定の職種か。

○事務局(小牧包括)

・幅広く募集をかけている中で、特に看護師職の募集をかけるものの応募がない。社会福祉士については、今年度については、新人職員が入っており足りている。

・職種に関係なく募集をかけても、応募がないというのが現状である。

○田中委員

・社会福祉協議会のことなので、1点補足させていただく。

・昨年度は、特に人員不足であり、今年度当初は9人というフルの人員体制となるよう法人内で人事異動を行った。しかし、残念ながら1名退職し、今現在も1名欠員となり募集をしている状態である。

○櫻井委員

・認知症サポーター養成講座について、小中学生を対象に行ったということだが、講習会をやっ
てから、小中学生の意見で何か手応えみたいなものはあったか。

○事務局(小牧包括)

・実践教室という形で5年生対象に実施した。その後、受講した方と接触する機会はない。しか
し、寸劇を交えたりする中で、積極的に教室に参加して一緒に授業を進めていくというような
姿勢は伺えた。

○櫻井委員

・学生の職業体験では、人気が高い職種とそうでない職種があり、「福祉」関係は、とても興味を
持っている方と、ただ来てしまったという感じの方がいる。興味がない方にも、医療・福祉の
良いところをアピールしていかないと、専門学校に行かれた方でも、金銭面の問題や人間関係
で福祉の職種から変わられる方が多い。全体的にそういったことを課題として、皆さんで高齢
者の方々を助けられるような世の中にして行けたらと思う。

・最終的には、若い方が力になってくれる。過酷な環境や金銭面といった要因で仕事を辞めてい
かれる方が多いと私は聞き及んでいる。長く続けて就労してもらうことも今後課題になってく
ると思う。

○事務局(小牧包括)

- ・認知症を理解していただくというところに特化して小学生向けの認知症サポーター養成講座を学校で実施させてもらっている。今後、法人に来る中学生等の職場体験等の様々な場で、小牧包括としても関わることができたらいいと思う。

【味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷の評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・味岡地域包括支援センター管理者より、令和元年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○福澤委員

- ・障がい者支援について、養護学校は、就業活動等には関与しない。家庭内や社会に馴染めるようにといった生活環境のことについて話し合っている。
- ・味岡包括は、どこまでの支援に関与しているか。

○事務局(味岡包括)

- ・ケースによるが、就労支援に繋がったケースもある。また、社会との関わりのため障がい者の交流会、障がい者家族の交流会に参加する方もいた。
- ・実際は、包括の総合相談からというわけではなく、連携し、障がいの相談支援事業所の相談支援員の方から対応いただいたというケースが多い。

○福澤委員

- ・障がい者の方が社会に出た後、考えていた「社会」とは違った現状が原因で、戻ってきてしまう例。もう1つは、学校と家庭での状態が異なるという方の例。そういったことについて、家族等からアドバイスを求められることはないか。

○事務局(味岡包括)

- ・直接的には、認識していない。

○福澤委員

- ・学校と家庭で様子が違う方もいる。家族から相談がなかったとしても、もう少し家族等に深く関与すると意外と違った面が見えてくると思う。

○野口委員

- ・地域包括支援センターは、高齢者に視点がいきがちだが、障がい者に目を向けるという点は、包括的に地域を見ていくというところで、とても良い視点の広げ方だと感じた。
- ・障がい者に視点を向けたきっかけはなにか。

○事務局(味岡包括)

- ・総合相談や個人宅に訪問をする中で、世帯として捉えたときに、本人だけでなく、本人を取り巻く世帯のこともしっかり整理をしていくことが必要と思うケースが多かった。そういった点から障がい者との交流が必要になってくると感じ、座談会のようなものを平成30年度から開催している。

○野口委員

- ・障がいを持つ子供が大人になっていくと、子供の時以上に介護に労力がかかり、介護者の様々な負担になる。介護者も高齢になり自分自身の生活もままならず、どうすれば良いか分からないというようなことが、全国で広がっているようである。そのような地域にならないようにしていけると良いと思っている。
- ・味岡包括は、相談件数等がとても多いので、その中から良い支援に繋がっていただきたいと思う。

○長岩会長

- ・子の年齢は、やはり 40 歳代、50 歳代あたりが多いか。60 歳代も多いか。

○事務局(味岡包括)

- ・実際に 60 歳代の方もいるが、件数としてはやはり 40 歳代、50 歳代の方が多い。特に男性の方で、何か障がい疾患があるのではないかと思いつつも、支援に繋がっていないケースが多かった。

○長岩会長

- ・障がい者の相談支援センター等と連携する必要が出てきているということだが、本日、事務局に担当課はいないが、行政の障がい担当部局や相談支援センターに、ちょっとした要望のようなものがあれば是非言って欲しい。

○事務局(味岡包括)

- ・味岡包括として、制度の理解や勉強不足という点も多々あるかとは思ふ。障がいの制度そのものを包括がしっかり理解できていない。また、同じように障がい者支援の相談員の方たちが介護保険制度をあまり理解されていないというようなケースはあったと思う。
- ・様々なケースを通して、制度のことをお互いに話をしていく中で、理解は深まっていく感じている。現時点で、要望は思いつかないが、今後も一緒にいろいろなことを対応していくことが必要とは思っている。

【篠岡地域包括支援センター小牧苑の評価結果】

- ・事務局より、資料 1 を用いて説明。
- ・篠岡地域包括支援センター管理者より、令和元年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○中野委員

- ・たくさんのごことに取り組まれていると感じる。
- ・包括の窓口に来ないならば様々なところへ包括自ら出向くという姿勢はとても良いと思う。そういうところから少しずつ認知されて繋がっていくと思うので、今後も継続して取り組んで欲しい。

○吉元委員

- ・自分が担当する利用者も買い物に出かける先で相談会があるということをお話していた。コロナ禍で一時期中止していたことも知っており、ちゃんと浸透していると感じた。
- ・包括の窓口はもちろんだが、身近なところに相談できる場所があるということを住民が知っていることが大切だと思うので、続けて欲しいと思う。

○長岩委員

- ・出張相談先の大型スーパーとの交渉で苦労はないか。

○事務局(篠岡包括)

- ・大型スーパー(アピタの頃)の運営管理者とお話をさせていただいたところ、快く場所のほうは提供していただいたが、当初は人の少ない広場を借りて実施した。その後、店舗を改装され、様子がかかなり変わった。ドン・キホーテに代わった当初、医療的な食品やプロテインといったものが置かれているコーナーの辺りを勧められたが、そういったコーナーに高齢者の方が立ち寄ることが少ないこともあり、交渉した結果、人通りの少し多いところをお借りすることができた。活動について理解をさせていただいており、苦労という程のことはなかった。また、こういったことがきっかけで認知症サポーター養成講座を実施した経緯もある。

○野口委員

- ・篠岡地区は広く、高齢者も多い状況だが、問題になってくるのは介護予防の関係かと思う。篠

岡地域の方は元気な方も多いかとは思いますが、介護予防についてどのように考えているか。

○事務局（篠岡包括）

- ・仲間づくりも含めて運動の習慣をつけてもらうため、介護予防運動プログラムを2か月通して、2クール開催した。1クール10数人という少ない人数ではあるが、参加した方の終了後の様子を見させてもらっている。少し意識が変わったというような声もいただいている。
- ・また、サロン等で介護予防の講話や体操を取り入れるようにもしている。

○野口委員

- ・介護予防運動プログラムへの参加は、どのように促したのか。

○事務局（篠岡包括）

- ・把握事業の対象の方や総合相談などで、最近足腰が弱ってきたという相談をいただくような方へもアプローチし、参加を促しています。

【北里地域包括支援センターゆうあいの評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・北里地域包括支援センター管理者より、令和元年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○長岩会長

- ・北里包括も、組織運営体制は100%ではない。この場合、やはり人材・人員確保のところか。

○事務局（北里包括）

- ・3職種と認知症地域支援推進員と、非常勤の保健師1名の5名配置されており欠員がないが、もう少し職員が欲しいと思う。

○中野委員

- ・認知症家族介護者交流会というものがあるが、これはどのように開催されているのか。

○事務局（北里包括）

- ・総合事業等に関わる方で、認知症の方を介護されている家族に案内を出している。また、介護をこれまでしてきた方も世話人という形で参加してもらっている。今後は今悩んでいる方と、以前介護をしていた方の意見交換の内容を包括でも聞き取っていきたいと考えている。

○櫻井委員

- ・意識の高い方は常連のように催し物に来る。意識の低い方は全く来ないが、性格上や環境の問題、心の変化、例えば配偶者を亡くした等の変化で変わってくると思う。そういった引きこもりがちの方をどのように社会参加や皆さんと交流の場へ引き出せるかが課題になってくると思う。
- ・自身の両親もまだ元気であるが、介護予防といったものに抵抗があり、サロン等があっても参加しようとしなない。そういった方も社会参加ができるようになると良いと思う。
- ・催し物に毎回来ていた人が来なくなったりすると、何かフォロー等するのか。

○事務局（北里包括）

- ・認知症家族介護者交流会や介護予防教室も参加する方がほぼ決まっている。現在は、案内をして、何回か来ない場合、状況を確認するようにしている。連絡を取って、状況を確認し、必要であれば、支援に繋げていくようにしている。

【評価結果の比較】

- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○野口委員

- ・南部包括の全体でボトムアップすることについて、職員全体で様々な見直しを行ったり、委託先にも話をしながらボトムアップするというのは、職員全員が同じようなレベルで支援ができるという面では、とても必要なことだと思う。こういったことは、他の包括も同様に取り組んでいただくと良いと思う。
- ・小牧包括は、介護予防に力を入れているという印象を受けた。地域の中で気軽に参加できるという部分は、介護予防の取組では、強みになると思う。
- ・介護予防は、これからさらに必要になってくると思う。意識を高めながら、我が事として住民が取り組んでいけるような仕掛けをしていくと、住民も意識が高まるのではないかと思う。
- ・また、北里包括の認知症予防プログラムを通し、医療機関と一緒にフォローアップし、1つのグループが自主化したという発言があったと思う。自主化していくためのエネルギーは相当な苦勞であると思う。今後、そのグループを継続させていくことも大切である。せつかくの自主グループであるため、あまり手を出さず、見守る体制を取りつつフォローをしてあげて欲しいと思う。

○長岩会長

- ・参考資料2の(3)初期相談発見経路があるが、他の市町村と比較すると、地域住民や民生委員からの件数が少ない印象を持った。一概に比較できるものでもないと思うが、この部分について、何か課題があるのか。
- ・代表で小牧包括の四宮さんに発言をお願いする。

○事務局(小牧包括)

- ・民生委員全体からの相談というより、特定の民生委員からの相談が多いと感じている。
- ・地域の中での課題の感じ方や気づき方は個人差があるため、民生委員に対しては、月に1度行われる地区ごとの民生委員の協議会で気になる方がいた場合は、包括に声を掛けて欲しいと啓発はしているが、まだ、相談にまでつながらない民生委員の方はいる。

○長岩会長

- ・件数のカウントの仕方にもよるのかもしれないが、小牧市の地域包括支援センターの認知度は、他の市町村と比べるとあまり高くない。
- ・件数のカウントの仕方同様、認知度の集計の取り方によるのかもしれないが、認知度は低いよりは高い方が良いと思う。これは、各包括だけが努力する課題ではないと思うが、現場でも認知度を上げる努力はしていただくと良いと思う。

○木村委員

- ・民生委員の立場で話をする。ひとり暮らし高齢者の自宅訪問は、定期的に行っているが、今年は、コロナ禍であり、あまり面談ができていないのが現状である。
- ・通常は、訪問時に何か困りごとはないかといった声掛けをする。場合によっては、民生委員でも娘と話してからと言われたりする。また、独居の方だと、家族が遠方に住んでおり、なかなか連絡が取れないといった困り事を聞くことがある。そういった困り事を聞いた場合には、民生委員から地域包括支援センターに連絡を取り、一緒に訪問したりしている。
- ・しかし、民生委員も個人差があり、どこまで介入していいか分からないといった声もある。特に男性の民生委員は、女性の方を対応するときには非常に難しいと感じるといったこともある。
- ・そういった中でも、できるだけ地域包括支援センターと協力できるところは、連携を取りながら活動していきたいと思っている。

3. 報告

(1) 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について

- ・事務局より説明。

・質疑、主な意見は以下のとおり。

○長岩会長

・介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議について、包括から依頼があったときは、事務局をとおして随時審議依頼が各委員に送られてくるということか。

○事務局

・そのとおりです。各委員については、ご承知置きいただきたい。

4. 閉会